広報 しらたか No.1290 Apr.2023

森林（もり）と共に

ー町域の東部は白鷹丘陵、西部は朝日山系、中央を最上川が流れ、豊かな自然に恵まれた町ー

■白鷹町の林業の歴史【上】

～白鷹町史より～

「東に白鷹山系と、西に朝日山系が北側で手を結んで全町を抱きかかえており、白鷹町は山会の町である白鷹山系は地味も肥え、杉の良く育つところである。西の朝日山系は、山険しく、自然林の様相を呈しているから、薪炭、広葉樹の供給地となり、それぞれ異なる林業を育ててきた。」

白鷹町の東の山は杉材を中心とした林業として、西の山は、燃料や炭などの林産物を恵む山でした。

また、山は牛、馬の飼料と肥料源としての採草地としても人々の生活を支えるものでもありました。

江戸時代、白鷹町は置賜一の杉の産地であり、建築用材として非常に貴重な資源として開墾や伐採の制限が行われるなど、領主より厳しく管理されてきました。また、各地区には山守（山の境界や森林窃盗から守る人）がおり、山の監視も行われていました。

その他、山を多く有する山間部の地域は、市街地の地域に対して入山料や通行料、年貢などを徴収し地域の財政を支えていました。

木材運搬の様子（昭和 15 年頃：荒砥駅）

江戸時代までの木材産業は、斧やノミ、両引きの大きなノコギリによる手引きの製材を行っていました。明治時代以降は、これまでの手動式の製材から水力の製材機が主流となり、黒鴨地区の製材所では、いち早く水力式の製材機が導入されたとの記録があります。製材機の導入は生産能力の拡大と地域での付加価値をつけた製品の販売へとつながり、地域に大きな経済効果がもたらされました。

さらにその後は、重油による蒸気機関の製材や電力の製材へと広がり、最盛期の昭和初期には町内各地で20数社が営業を行っていました。

またこの頃白鷹町の木材は電柱材として東京方面に出荷されており、杉の生育、品質とも日本一と評されていました。杉材の他にも栗材や松材は鉄道の枕木として多く出荷され、関東大震災の復興や戦後の復興に大きな役割を果たしていました。

かつての白鷹町の林業・木材産業は養蚕と並び産業の活性化に大きく貢献しているものでありました。

山仕事（大正６年頃）

※次号につづく

編集と発行／白鷹町企画政策課
〒992-0892 山形県西置賜郡白鷹町大字荒砥甲833
☎0238(85)2111 [FAX]0238(85)2128
ホームページ：http://www.town.shirataka.lg.jp
E-mail:kikaku@so.town.shirataka.yamagata.jp

広報しらたかは再生紙を使用しています。